

臨床研究に関する情報の公開

作成日：2026/8/26

研究課題名	Exophytic pituitary adenoma に対する拡大経蝶形骨手術の治療成績の検討
研究の対象	これまでに、当院で exophytic pituitary adenoma の診断を受けられ、拡大経蝶形骨法により腫瘍摘出手術を受けられた患者さん。
研究目的	下垂体腺腫は良性腫瘍であるが、腫瘍が増大した場合には内分泌障害、視力視野障害などが報告されている。通常下垂体腺腫は下垂体実質内で発育増大し、菲薄化した下垂体などが偽性被膜を形成する。しかし下垂体腺腫が下垂体の実質外で増大することがある。この発育形式で鞍上部に進展し、偽性被膜を作らず脳底槽内で増大したものを鞍上部 exophytic pituitary adenoma と呼んでいる。周囲の神経、血管を巻き込むように浸潤性に増大するため、標準的な経蝶形骨手術による全摘出は困難であり、拡大経蝶形骨法にて蝶形骨平面から脳底槽にアプローチし摘出することが検討される。この腫瘍に対する拡大経蝶形骨手術の有用性、治療成績を検討する。治療成績を明らかにすることは、今後の治療戦略を考える上で有用な情報になると考えられる。そこで、過去に治療した exophytic pituitary adenoma に関して随時治療成績を評価・検討する。
研究方法	富永病院で治療を行った exophytic pituitary adenoma の全症例が研究対象となる。exophytic pituitary adenoma に対して、拡大経蝶形骨法を用いて、蝶形骨平面から脳底槽へアプローチし腫瘍を摘出する。診療情報を用いた後ろ向き観察研究。後ろ向き観察研究であるため、研究に伴う直接の有害事象は無い。
研究に用いる試料・情報の項目 (例：血液、検査データ、診療記録等)	① 視力障害などの臨床症状、診療録記録 ② ホルモンなどの採血検査結果 ③ MRI や CT など画像検査による腫瘍の形状変化
研究期間	2009 年 3 月 1 日～現在研究継続中
外部への試料・情報の提供、取り扱いについて	原則、外部への試料・情報の提供は行いません。医療情報のデータの保管・管理は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。
研究代表者の氏名及び所属する研究機関の名称	北野 昌彦 社会医療法人寿会 富永病院 脳神経外科
研究責任者および試料・情報の管理責任者(共同研究の場合は研究代表者)の氏名及び所属する研究機関の名称	北野 昌彦 社会医療法人寿会 富永病院 脳神経外科
上記以外の研究機関の名称	
本研究に対するご質問などについて	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
ご質問のお問い合わせ先	社会医療法人寿会 富永病院 脳神経外科 北野 昌彦 〒556-0017 大阪市浪速区湊町 1-4-48 TEL:06-6568-1601 FAX:06-66568-1608 Email: mkitano@tominaga.or.jp 研究代表者 北野 昌彦